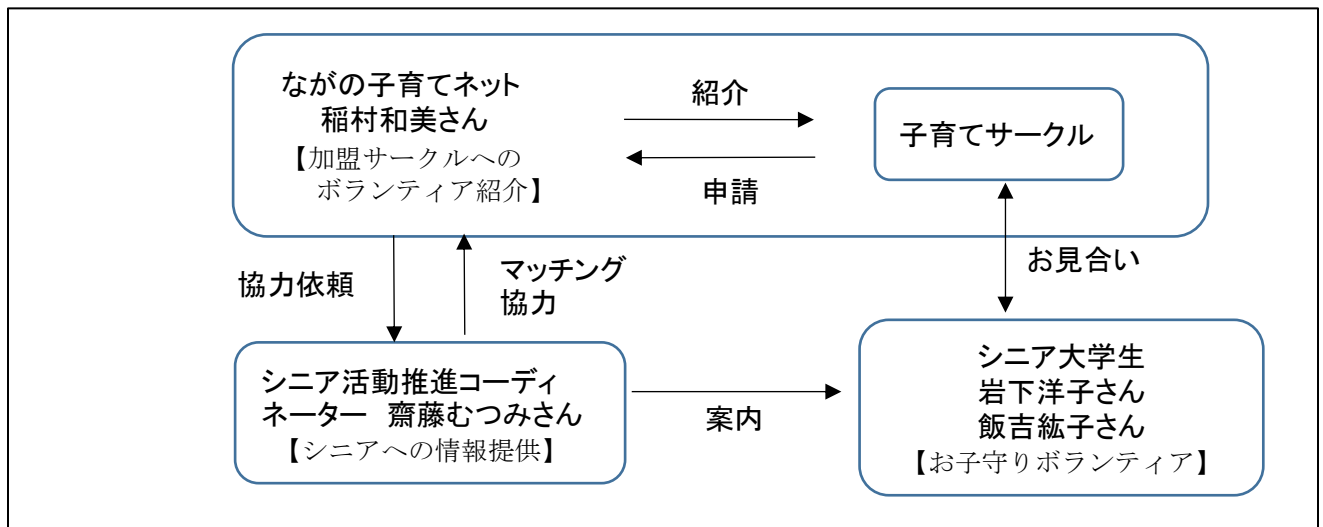


テーマ③: 子守りボランティアを通じた世代間交流の取組

取組概要	子育てサークルに参加するお母さんが、サークル活動に集中できるよう、子育て経験豊富なシニアのお子守りボランティアの創出と、子守りを通じた世代間交流を行った。	
発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・ ながの子育てネット ・ 子守りボランティア <li style="text-align: center;">〃 ・ シニア活動推進コーディネーター 	<ul style="list-style-type: none"> 稲村和美さん 岩下洋子さん(シニア大学学生) 飯吉紘子さん(シニア大学学生) 齋藤むつみさん



1 取組の背景

- 核家族が増加し、身近に子育てについて相談できる相手がいない。
- 子育てサークルでは、子ども達と一緒に、落ち着いて活動ができない。



- ・ サークル活動中、ボランティアで子ども達の子守りをしてくれる人はいないか。
- ・ 子育ての相談ができると経験豊富なシニアはいないか。

2 取組を進める上での課題・対応

- 子守りの担い手の確保 ⇒ シニアの力を活用。シニア大学生に呼びかけ
- 登録制度の運営 ⇒ ながの子育てネットが担当

3 取組の経過

- H27年～ 「ながの子育てネット」稲村さんが 戸田Co、齋藤Coに相談
- H28年3月 齋藤Coが、シニア大学、タウンミーティングで「お子守りボランティア」に関する情報提供の機会をセッティング
- H28年5月 「お子守りボランティア登録説明会」開催
(子育てサークル3人、ボランティア2人参加)
- H28年5月 子育てボランティア スタート



4 成果

- 子育てサークル活動の活発になった。
- 母子で過ごす時間が多く、人見知りしていた子どもが 母親から離れて過ごす機会を持てたことで、母子で入園前の気持ち作りができた。
- 子育てに関する悩みが身近に相談できるようになった。
- シニアが社会で必要とされていることを実感した。
ボランティア実施シニア 10人

5 今後の課題

- 少子高齢化の進む中で、子供たちとシニアの関わり合える場をどう創り出すか。
- シニア(特に男性)の参加をどう増やしていくか。